

Libella りべら

持続可能な未来をみんなで作る

VOL.168
2025.06

りべら VOL.168 2025.6

発行所：公益財団法人公害地域再生センター（あおぞら財団）
〒555-0013 大阪府西淀川区千舟1-1-1あおぞらビル4階



特集 | あおぞら財団年次報告2024年度

〈対談〉

—あおぞら財団 約30年の

歩みをふりかえる— …………… 1

柱① にしよどがアートになる日 …… 3

柱① 災害に弱いまちだからこそ、
多様な力で未来へつなぐ
防災まちづくり …………… 5

柱② 西淀川・公害と環境資料館
(エコミュージズ)の活動 …………… 7

柱② 西淀川の昔と今を伝える
フィールドワーク紹介動画 &
パンフレットを作成 …………… 9

柱③ アジアの環境活動で
つながろう! …………… 11

研究者からひとこと …………… 13
事業一覧/財務状況 …………… 14
ご支援のお礼 …………… 15

あおぞら財団
30
Anniversary

2024年度 ご支援の御礼

お助けボランティアとして、計6名の皆さまにご協力いただきました。
また、インターン生1名の受け入れも行いました。
あおぞら財団の活動は、多くの方々からのご寄付やご寄贈に支えられています。
ご支援くださった皆さま、本当にありがとうございました。

お助けボランティア（敬称略・順不同）

渡辺 哲敬 山下 晴美
MOKU 左成 志朗
岡崎 久女 増本 美江

インターン生（敬称略・順不同）

加嶋 夕暉（近畿大学）

賛助会員

● 2024年度（2025年3月末時点）
（件数）

個人	93
学生	0
法人	13
団体	9

寄附・寄贈者（2024年4月～2025年3月 敬称略・順不同）

青山 正利	功刀 恵美子	中村 昌史
浅井 真二	kent	中山 裕二
新井 真	公益財団法人交通エコロジー・ モビリティ財団	西淀川区民まつり募金
安藤 聡彦	このはなまちセン	新田 保次
一般社団法人大阪ファルマプラン	小橋 伸一	認定NPO日本都市計画家協会
植田 和弘	小林 啓	野里地域活動協議会
内田 寛	酒井 健一	平川 千宏
逢坂 隆子	澤田 佳宏	廣瀬 平四郎
あおぞら市の皆さん	島 正之	弁護士法人LSC
大塚 健司	嶋田 章	細野 宏
岡地 武	清水	松村 暢彦
奥村 昌裕	清水 万由子	松本 嘉子
香川 雄一	白神 加奈子	みたか
傘木 宏夫	資料館募金箱	宮本 憲一
片岡 直樹	関 礼子	宮本 由貴
一二産業株式会社	全国公害弁護団連絡会議	村松 昭夫
金谷 邦夫	大門 信也	MOKU
鎌形 浩史	谷 智恵子	森脇 君雄
川崎 美榮子	タンDEM自転車NONちゃん 倶楽部	山岸 公夫
川野 達雄	津留崎 直美	山崎 義郷
川原 一之	TK.Nara	山崎 光信
独立行政法人環境再生 保全機構	TERA Energy株式会社	鎗山 善理子
環境省	寺西 俊一	吉田 長裕
北泊 謙太郎	中西 美穂	吉田 巖
寄付者ニックネーム Y		吉田 隆之
		脇田 武利
		匿名1名



1960年代から問題となった大気汚染公害によって、多くの方が健康被害を受けました。その責任を問う西淀川公害裁判（1978～1998）では公害患者が勝利しました。患者は「手渡したいのは青い空」を願い、裁判の和解金の一部を使って1996年にまちづくり組織・あおぞら財団を立ち上げました。まちづくり・資料館・環境学習・公害患者の保健・国際交流の事業を行い、持続可能な地域づくりに取り組んでいます。

【あおぞらビル】

【1F】地域交流スペース「あおぞらイコバ」
会議、ギャラリー、コンサート、上映会などにご利用いただけます。
午前：1,000円/午後：1,300円/夜間：1,300円/全日：3,000円

【5F】西淀川・公害と環境資料館（エコミュージズ）

西淀川公害や環境について、地域の歴史などが知りたい人はぜひお越しください。（環境教育等促進法にかかる「体験の機会の場」認定施設）

開館日 月曜日と金曜日（10:00～17:00）/要事前電話予約

※いずれも、予約・お問い合わせは4F事務所へ

【会員・寄附募集】

あおぞら財団への寄附や賛助会費は、税制上の優遇措置があります。

● 賛助会員 会員の方には機関紙「りべら」などをお送りします。
【年会費】個人：年一口5,000円、学生：年一口2,000円、
法人・団体：年一口10,000円

● 会費・寄附の振込先

【郵便振替口座】記号・番号：00960-9-124893/加入者名：あおぞら財団
【ゆうちょ銀行】金融コード：9900/店番：099/預金種目：当座
/店名：0九九店/番号：0124893/名義：あおぞら財団
【三菱UFJ銀行】歌島橋支店/普通/3728858/財）公害地域再生センター
これまでご案内しておりました、三菱UFJ銀行と口座が変わっておりますので、ご注意ください。

— あおぞら財団
約30年の歩みを
ふりかえる —

あおぞら財団は、来年の2026年に設立30周年を迎えます。西淀川の公害患者が願った「手渡したいのは青い空」。その思いとともに、あおぞら財団は、持続可能な地域を目指し、活動してきました。この節目を前に、龍谷大学教授の清水万由子さんが書籍『公害地域再生』とは何か—大阪・西淀川「あおぞら財団」の軌跡と未来(藤原書店)をまとめられました。その内容もふまえて、村松昭夫理事長と清水さんによる対談を行いました。過去の公害の経験をどう受けとめ、どのように地域に根ざした活動を続けてきたのか。そして、次の世代へどうつないでいくのか—。二人がその思いを語りました。

あおぞら財団30年プレ対談

日時 | 2025年 4月24日(木)
19:00~20:30



30年の歩みを振り返る

清水 あおぞら財団の取り組みを「公害からの再生」という言葉だけで表すと、きれいに聞こえてしまうかも知れませんが、でも実際の取り組みは、決して簡単なものではなく、決まっています。30年間の歩みを振り返ると、「再生した」と胸を張って言えるような確証があるわけでもない。

でも、地域を編み直そうとする努力が積み重ねられてきたこと自体が、社会にとって価値あるものだと感じたんです。だからこそ、この営みを記録に残したいと思ひ、書籍にまとめました。

村松 西淀川公害裁判の解決要求では、被害救済や再発防止にとどまらず、「地域そのも



の再生する」という視点がありました。公害裁判では珍しい要求だったと思います。当時から、「再生」には明確なモデルがなく、まさに手探り。初期の頃は、ピオトップなど、見えるかたちの取り組みを模索しながら、患者さんや若いスタッフがエネルギーを持って挑戦していました。

変化してきた財団の役割と地域との関係

清水 財団の活動を時期に分けて見ると、初期の切り口で読み解き「翻訳」していく必要があります。たとえば、西淀川区のアーティストイベント「みてアート」に参加したアーティストが、公害患者さんの短歌から大きなインスピレーションを得て作品をつくってくれたことがありました。表現を通じて社会に問いかけるような場面が、今後もっと生まれてくるといいなと願っています。

未来に向けて—
あおぞら財団に期待すること

清水 財団が「存在し続けること自体に意味がある」と思います。地域に根ざしながらも、公害患者の願いを出発点としたこの団体が、今後も自分たちの経験を言葉にし、発信し続けてくれることを期待しています。

清水 エコミューズ(西淀川・公害と環境資料館)が20年以上かけて整理してきた資料群は、まさに「ダイヤモンドの原石」。それを活かすには、歴史家や研究者、アーティストなど、異なる立場の人がそれぞれ



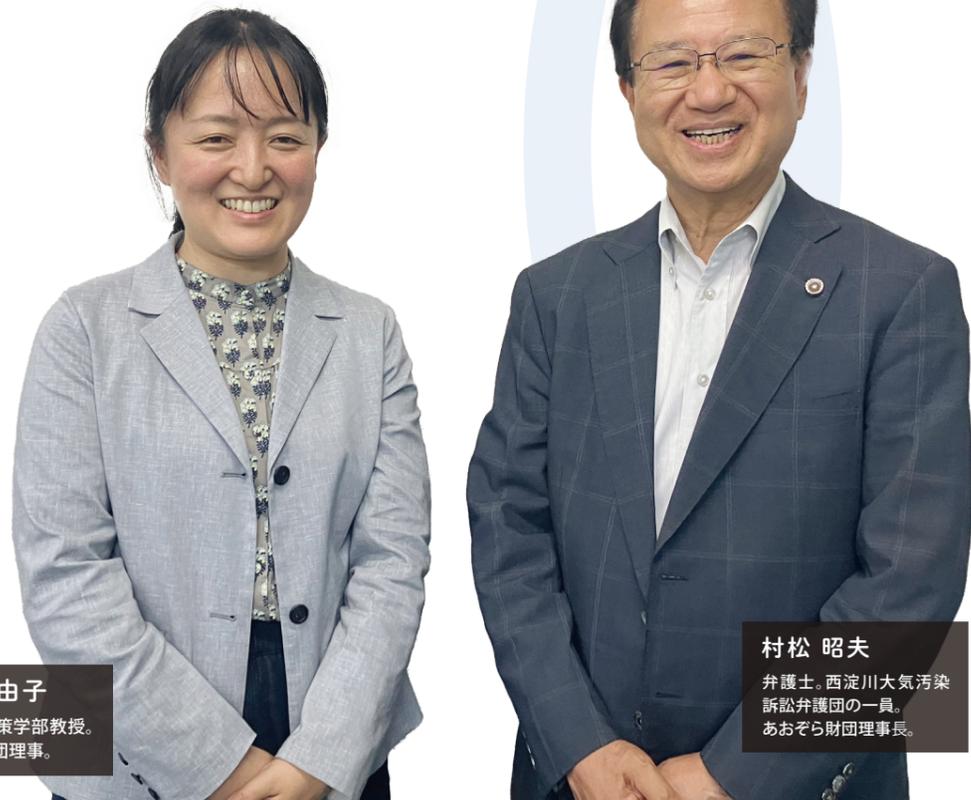
村松 「再生」とは、何か施設をつくったら終わりではなく、人と人のつながりをどう育てていくにかかっています。だから終わりはありません。今年度、今からあおぞらビルから新しい場所に事務所を移転する予定です。30周年という節目にふさわしい「新たな出発」として前向きに捉え、新しい土地での新たな出会いや協働が、また次の財団をつくっていくと考えています。

「記録」から「継承」へ—
エコミューズの取り組み

清水 公害資料や語りは「継承」の材料にはありますが、それ自体が継承ではない。大切なのは、社会の一人ひとりがその経験を自分の言葉で受け止め、考え、生き方に反映させること。たとえば「こんな目に遭ってほしくない」「同じことは繰り返したくない」という思いが、人々の行動に「じむ」ように根づいていくことこそ、継承の本質ではないでしょうか。

村松 私も裁判に関わるなかで、「理不尽に命や健康を奪われる社会は変えなければ」という強い思いが、次の行動や運動につながっていききました。継承とは、一人ひとりが何かを感じ取り、それを次に伝えたり動いたりすること。その営みが続く限り、公害の教訓は生き続けると思っています。

清水 財団が「存在し続けること自体に意味がある」と思います。地域に根ざしながらも、公害患者の願いを出発点としたこの団体が、今後も自分たちの経験を言葉にし、発信し続けてくれることを期待しています。



清水 万由子
龍谷大学政策学部教授。
あおぞら財団理事。

村松 昭夫
弁護士。西淀川大気汚染
訴訟弁護団の一員。
あおぞら財団理事長。



「公害地域再生」とは何か—
大阪・西淀川「あおぞら財団」の
軌跡と未来



清水万由子 著
ISBN-13: 9784865784503
刊行日: 2025/2 藤原書店



会場のひとつ
レイモンド
西淀保育園にて

「公害のまち」から「アートのまち」へ

かつて大気汚染などが深刻化し、「公害のまち」とも呼ばれた西淀川区で、みんながまちのことを考え、元気になるアートイベント「にしよどがアート」なる日。みてアート」を2024年11月2〜3日に開催しました！今回で12回目となり、いろんなアートの輪がひろがりました。

みてアート・西淀川芸術祭



「みてアート・西淀川芸術祭2024」はこれまでで最多の49カ所が拠点となりました。今年のテーマ「せかい」にちなんだ国旗シールラリーを開催（西淀川区内に住んでいる人の出身国から）。5カ所以上

廻ってプレゼントをもらった人の数は313人、全体参加者のべ約1,200人が各々まちを巡ってアートを楽しみました。

サテライト企画「みてみて」



今年から、みてアートのサテライト企画として始まった「みてみて」。区内6カ所で8つの展示を行いました。街並みが変わっていく中、暮らしや歴史の文脈を捉え表現するアーティスト達の作品を見ながら区内を巡ることで、改めて住む場所の現在や少し先の未来について考えたりする機会になればと企画しました。



宇宙船 VIMANA号
アーティスト:村岡亮



「Beneath The Blue Sky」会場:あおぞらビル6F書庫
アーティスト:mizutama 撮影:力武拓也



「All Between Canal Bords」アーティスト:トラン・ミン・ドゥック

西淀川区アート事業「ニシヨドパビリオン」でつながろう



「ニシヨドパビリオン」
アーティスト:PALLALINK(PALLA/井上ヒデコ/杉原尚樹)+城村握
撮影:力武拓也

「なんなんやこれ？」と大野川緑陰道路に突如現れた大きなクジラの骨のような作品「ニシヨドパビリオン」。これ

は令和6年度西淀川区アート事業として、西淀川区より委託を受けてあおぞら財団が運営、アーティスト(PALLALINK+城村握)の協力を得て、制作したものです。他の作品・WSとともに、大阪・関西万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」の創出と、世界各国の国際文化を学ぶ機会をつくることを目的とした市民参加型アートプロジェクトとして展開しました。



「空色の旗をふる」アーティスト:村田のぞみ 撮影:寺岡海

EJアート



みてアート最終日、淀川

河畔に風にたなびく大きな旗が現れました。アーティスト村田のぞみ、コーディネーター松岡咲子による作品

「空色の旗をふる」です。大阪公立大学「EJ ART」人材育成プログラムの一環で、「公害から環境共生」『困難な過去』を見つめていくためのアートプログラム」として実施されました。

さんよど大文化祭



今年から、西淀川区、東淀川区、淀川区の3区で「さんよど大文化祭」と称し、11月から12月にかけて毎週、各地でさまざまなアートのイベントが開催されました。



「思いやりのまち」アーティスト:朝原美華



「みてタワー」アーティスト:モリソノ 撮影:力武拓也

協力者からひとこと



村田のぞみさん
美術作家

大阪公立大学「EJ ART」人材育成プログラムとあおぞら財団の連携により、2023年から「みてアート」の福町エリアで作品展開をさせていただきました。作品作りを通して出会う西淀の人々、特に子どもたちは伸び伸びとしていて、旗に絵を描いてもらう作品では、カラフルで元気いっぱいな絵がたくさん描かれていました。作品に関わってくださったこどもたちの未来にも、今と同じ明るい空が広がって欲しいと願うばかりです。この土地で二度と公害が起こらないために自分は何ができるのか、「みてアート」に関わったことが、自身の生活を見直すきっかけになりました。

災害に弱いまちだからこそ、多様な力で未来へつなぐ防災まちづくり

災害に弱い西淀川区

西淀川区は三方を海や川に囲まれた低地にあり、南海トラフ地震による津波や高潮、地盤の液状化などの被害が想定されています。大阪市の中でも特に被害リスクが高い地域である一方、防災訓練の一般参加率はおよそ5%にとどまり、地域全体の防災力にはまだ課題が残っています。中でも、若い世代の防災意識の低さや、避難に支援が必要な方々への備えは、早急に取り組みべき大きなテーマです。

あおぞら財団では、西淀川区の委託を受け、「安心して暮らし、働き続ける・西淀川区防災まちづくり」をめざして、防災教育、防災啓発、避難行動要支援者避難支援に取り組みま

を通して支援者どうしのつながりや情報共有も深まりました。避難の緊急性が高い事例に対応するため、関係機関と連携し、支援方法の検討が進められています。

また、福祉施設では福祉避難所の合同訓練も行い、利用者(当事者)自身が避難や避難所づくりに関わることで、多くの気づきがありました。地域で防災を担う住民の方も訓練に参加し、施設と地域のつながりがより深まりました。

これからに向けて

西淀川区の防災力を高めていくためには、地域のみなさんと一緒に、継続して

した。また、にしよど親子防災部の事務局も担い、「生活の中心に防災を」を合言葉に、子どもや子育て世代に向けた活動も行いました。

若い世代と一緒に防災を学ぶ

若い世代に防災の大切さを伝えるため、さまざまな取り組みを行いました。小中学校



福祉避難所開設訓練 布担架で搬送

上) 防災エキスポ 多様な学生団体によるブース出展
下) 小学校での防災授業

や支援学校では、発達段階に応じた防災教育プログラムを提案し、先生たちが主体的に防災授業を進められる体制づくりを整えました。2025年2月には、学生たちが中心となって「にしよど防災エキスポ」を開催。小学生から大学生まで、さまざまな世代の学生団体や地域の団体が力を合わせ、楽しく学べる場をつくりました。新しくスタートし

た「西淀川区ジュニア防災リーダークラブ」の活動も支援しています。

また、自主事業として、にしよど親子防災部ではオリジナルのかるたを使った「防災かるた大会」、西淀川区内を巡る「防災さんぽ」「防災ロゲイニング」、料理を通して学ぶ「防災クッキング」など、身近に楽しく防災を感じられる企画に取り組みました。

避難に支援が必要な方への取り組み

避難行動要支援者への避難支援を強化するため、モデル地域を中心に地域住民の協力を得て個別避難計画の作成が進められました。福祉専門職による支援も継続され、研修

協力者からひとこと



多田 祐亮さん
防災士。大阪防災企画代表。
淀川右岸水防団に所属。

本事業に協力するにあたり、担い手が慢性的に不足する地域活動を防災の視点から活性化することをめざしました。

防災さんぽや防災教材で地域の歴史を知ってもらい、ただ災害に備える知識だけでなく、地域に対する愛着を育てるきっかけとしジュニア防災リーダーになることで次の担い手を確保する一連の流れを意識しました。

取り組んでいくことが大切です。若い世代の防災意識をさらに育てて、地域の担い手になってもらえるように、防災イベントや教育の場をもっと充実させ、学校と地域がしっかりと連携していくことが求められます。また、避難に支援が必要

な方を地域全体で支えられる体制を広げていくことや、福祉避難所での訓練を続けていくことも重要です。あおぞら財団はこれからも、区役所をはじめいろいろな団体と力を合わせて、西淀川の「防災まちづくり」に取り組んでいきます。

ディサービスセンター

あおぞら苑

あおぞら御膳

あおぞらの湯

【お問い合わせ】
TEL : 06-6475-0111 FAX : 06-6475-0114
URL : <http://aozoraen.com/>
運営 : 社会福祉法人 あゆみ福祉会

◆あおぞら苑(事業所番号 2791000090)
〒555-0032 大阪市西淀川区大和田5丁目7番14号
開所曜日: 月曜日～土曜日(祝日は開所) 利用人数: 1日18人

◆あおぞら苑II(事業所番号 2771002173)
〒555-0031 大阪市西淀川区出来島1丁目2番4号
開所曜日: 月曜日～土曜日(祝日は開所) 利用人数: 1日25人

2006年10月1日にディサービスセンターあおぞら苑は産声を上げました。西淀川公害裁判で四半世紀命をかけて闘った患者さんや家族のみなさまの思いが、ひとつの形になったのがディサービスセンターあおぞら苑です。公害患者さんも高齢になり日々の生活を援助するために、また地域のみなさまが誰でも利用でき、「西淀川に住み続けて良かった。」と思えるようにとの思いがたくさん詰まった場所にしたいと思い設立しました。



西淀川区役所
YouTube
にて公開中



にしよど防災さんぽ

研究員
谷内 久美子

西淀川・公害と環境資料館 (エコミューズ)の活動

公害の記録を 未来に残すために

本活動では、西淀川・公害と環境資料館の日常的運営の継続、そのために資料の整理を進める、資料館を地域の人に知ってもらえるよう企画展を開催する、所蔵資料を広く知ってもらうため資料集の作成をおこなうことをめざして取り組んできました。

資料の整理を進めました

2024年度に目録化した資料の点数は、細目録が87点です(累計数は、大目録2,962点、



2024年度受入れた資料「戦後初期、区画整理後の上空写真(御幣島町)」
出所:山崎光信氏

細目録61,581点)。今後は、新規で受け入れた資料の目録作成や、大目録のみ作成している資料の細目録作成を必要に応じて進めていきます。新規で受け入れた資料は、2024年度は写真資料が多くあり、お借りして、電子化した後、返却する予定にしています。いずれも、当方を伝える貴重な資料です。



企画展「写真でふりかえる 工業地域化する西淀川区―戦前・戦後から高度経済成長期まで―」みてアート2024

みてアートの企画展 「写真でふりかえる 工業地域化する西淀 川区―戦前・戦後から 高度経済成長期まで ―」を開催

11月2日〜3日におこなわれた「みてアート2024」にエコミューズが拠点として参加し、企画展「写真でふりかえる 工業地域化する西淀川区

―戦前・戦後から高度経済成長期まで―」を開催し、190人が来館しました。1日目が土砂降りの雨だったため、昨年よりは少ない来館者数でしたが、西淀川区が農漁村地域から工業地域へと変化していった様子を見てもらうことができました。

資料集に掲載する資料 を約140点厳選し、 翻刻完了

「西淀川公害がわかる資料集」の作成に向けて、エコミューズ所蔵の資料を検討する勉強会を2021年10月から1回のペースで行っており、2024年度は、全部で10回開催しました。専門家からなる「資料集編集委員

「エコミューズ館長日記」はじめました

資料集作成の過程を広く知っていただこうと、2024年8月から「エコミューズ館長日記」をブログやSNSで発信しています。

学生スタッフとのやりとりを交えながら、膨大な資料と向き合うさまを小田康徳館長の目線を通じて垣間見ていただけるかと思ひます。



西淀川公害 基礎資料
ウェブ版

研究者
鎗山 善理子

協力者から ひとこと



コンラッド・ヒラノさん
ノースウェスタン大学 歴史学 ポスドク講師

西淀川・公害と環境資料館(エコミューズ)を初めて訪れたのが2014年6月。アメリカで生活している私にとって頻りにエコミューズに通うことは難しいですが、渡日の際には必ず資料館に寄って原資料に触れてきました。修士論文(歴史学・モンタナ州立大学)及び博士論文(歴史学・ノースウェスタン大学)の執筆に多くの一次・二次資料を活用させていただきました。エコミューズでは、西淀川を始め様々な地域の大气汚染公害の歴史を伝える資料を利用できます。大气汚染公害の国際的・学際的研究の拠点としての増々のご活躍を切に願っております。

会」は計6回開催しました。メンバーは小田康徳館長、佐賀朝氏(大阪公立大学教授)、松岡弘之氏(岡山大学准教授)です。第一次調査では約280点の資料を選定しましたが、ハンディな書籍版をめざして、約140点にまで絞り込み、掲載予定の資料の翻刻をすべて終えることができました。第1章から第6章の構成立てとなっており、各章の解説を作成中です。

資料集第1章をインターネットで公開― 「必携 西淀川公害 基礎資料 ウェブ版」

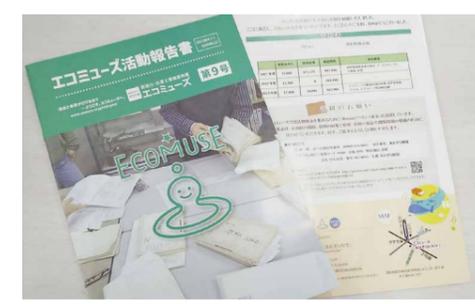
頁数の制約の都合、書籍版

資料館活動および 資料集作成のための 寄付集め

エコミューズでは設立当初から運営のための寄付集めをおこなっており、最近はおこな

の資料集には掲載できなかった資料をインターネットで閲覧できるようにしようと、まずは、2024年度は試行版として、第1章部分の写真資料の公開をおこないました。サイト内で検索できる仕組みにしています。今後、第2章以降も資料を掲載していく予定です。

※本事業には(独法)環境再生保全機構地球環境基金助成金を活用しています。



「エコミューズ活動報告書」第9号(2024年6月発行)

に、資料集を作成するための寄付集めをしています。おかげさまで2024年度652,710円のご寄付を頂戴しました。誠にありがとうございます。資料集出版に向けては、300万円を募る目標に、どのように寄付を募るかの検討をおこないました。

【広告】

医療費の支払でお困りの方 相談下さい。「無料低額診療」実施中！ ～「いのちの平等」をめざして～ 差額室料をとらず、24時間365日 医療と介護

看護師・
介護職
募集中!

WHO認証
「地域健康増進支援事業所」
認証施設

- ・西淀病院
- ・のざと診療所
- ・千北診療所
- ・ファミリークリニックあい
- ・姫島診療所
- ・ファミリークリニックなごみ
- ・介護老人保健施設よどの里
- ・在宅総合センターらくらく
- ・社会医学研究所



公益財団法人淀川勤労者厚生協会 TEL 06-6471-0496 URL www.yodokyo.or.jp

西淀川の昔と今を伝える フィールドワーク紹介動画 & パンフレットを作成

公害の記憶を次世代へつなぐために

かつて「公害のまち」と呼ばれた西淀川。公害被害の経験や環境を取り戻すために立ち上がった人びとの歩みを伝え、持続可能な未来につなげるために、あおぞら財団では「西淀川フィールドワーク」に取り組みをより多くの人に伝えるため、地球環境基金の助成を受けて、紹介動画とパンフレットを制作しました。

検討を重ねて5つのトピックを抽出

あおぞら財団の研修では、「①現場から学ぶ」、「②社会を変える力を持つことを知り、



龍谷大清水ゼミ 公害患者さんへのインタビュー撮影

市民力を高める」、「③多様性を大事にし、さまざまな視点から学ぶ」の3つを大切にしています。紹介動画とパンフレットの作成にあたっては、フィールドワークのテーマやトピック、楽しさ・感動を伝える工夫について、会議や研究会を重ねて検討しました。

テーマは「環境を住民の力で勝ち取れることを学ぶ」。次の5つのトピックを通して、参加者が自分のまちと西淀川を比較しながら、主体的にまちを考える視点を育むことを目指しています。

フィールドワークのトピック

- 1 住民はどうやって環境を取り戻した？
- 2 工場はどこに行った？
- 3 「公害道路」の今は？
- 4 西淀川は海の中？
- 5 地域再生のキーワードは「パートナーシップ」



公害語り部の授業

動画とパンフレットの構成と工夫

動画では、大野川緑陰道路や公害道路と呼ばれた国道43号など現地の様子を紹介し、大気汚染に苦しんだまちが、市民の力でどう変わってきたのかを伝えています。紹介は一部にとどめ、「もっと知りたい」実際



西淀川
フィールドワーク
パンフレット



西淀川
フィールドワーク

研究員
谷内 久美子

に歩いてみたい」と思ってもらえる構成にしました。
パンフレットでは、西淀川の過去と現在の写真を用い、学びの5つのトピックについて解説。研修では合わせて公害患者さんをはじめとした多様な方々のお話や参加型の教材も紹介しています。

市民性を育てる フィールドワークとして

この動画とパンフレットを通して、西淀川の公害の経験と再生の歩みを多くの方に届け、未来をつくる市民を育てるフィールドワークを今後も広げていきます。

2024年の研修 この一言がすごかったベスト3

「公害を学んでよかったこと、何かある？」という質問に対する回答

大阪市総合教育センター主催の研修で西淀川公害を知って

自分たちの力で社会を変えられることがあるんだというところがよかった！

西淀川公害は、地域の問題に根ざしながら、新しい人権である環境について学べる教材

昔の人が空気をきれいにしてくれたことに感謝したい

龍谷大清水ゼミの学生

佃中学校 近藤克樹先生

公害語り部の授業を受けて

香養小学校の児童

理事からひとこと



高田 研さん
あおぞら財団理事

一般社団法人地球温暖化防止全国ネット理事長

私たちはこの西淀川に来ていただいた皆さんに伝えたいことがたくさんあります。だからたくさん言葉で語ります。しかし「語ったこと」が「伝わること」にはならない事に気づきました。そこで伝えたいテーマを絞り込み、それをトピックで整理し、来ていただいた方々とのやりとり/会話を通して「伝えたいこと」と「学びたいこと」の隙間を埋めていく手法を考えました。これをインタープリテーション(略してIP)といいます。IPで大切にすることはフィールド。そこにある人や物、景観。それらの物を通して、その背景にある歴史やそこに生きた人の思いに至ること。そして来られた方々と共に考える/学ぶ時間を大切にします。ぜひ私たちのフィールドワークにおいていただき、研究員との学びの時間を体験していただければと思います。

調理後の油を
無料で回収します！

50年以上の実績で、一滴残さず再び資源にリサイクル。資源循環でSDGsに貢献します！

笑顔で回収いたします

7 7年連続「環境」分野でSDGsに貢献

12 つくば未来都市づくり推進

17 パートナーシップで目標を達成しよう

浜田化学株式会社 Hamada Kagaku

まずはお気軽にお電話ください！
TEL 06-6411-3457

@hamadakagaku

アジアの環境活動でつながろう！

事務局長・研究員 藤江 徹



8月「善芸プロジェクト」研修受け入れ

日中の子ども達で交流

2024年夏(8月1日)、「Art for Good 善芸プロジェクト」(中国語・善芸計画)メンバーとして浙江省の中学生9人、大人スタッフ5人が来日し、日本側は中学生3人、小学生6人が参加し、交流しました。

互いにインタビューしたり、タンDEM自転車で大野川緑陰道路を走ったり、環境保全・公害問題というテーマを通して、お互いの国の文化や習慣などを学び、有意義な時間を過ごしました。



大阪市環境局(咲州)にて

ベトナムから環境NGOメンバー2名が来日！

これまでもつながりのあるベトナムの環境NGO「Live & Learn」のスタッフ2名が来日し、西淀川大気汚染公害についての研修や大阪と京都の環境施設への視察、意見交換会などを行いました。互いに学ぶべきことが多く、今後も交流活動を続けていくことになりました。



京エコロジーセンター(京都)にて

インド再訪

近年、大気汚染が問題になっているインド、デリーを再訪し、環境問題に取り組む国際労働機関(ILO: International Labour Organization)テリー事務所にてお話を伺いました。引き続き、オンラインも含めて、大気汚染をテーマに意見交換を続けていくことになりました。



世界遺産 フトップ・ミナル(デリーにて)



牛とも共生(デリー市内にて)

協力者からひとこと



知足 章宏さん

フェリス学院大学 グローバル教養学部 国際社会学科 教授

アジア各国で深刻な大気汚染を改善していくためには市民の力が不可欠です。どのような状況か、取り組みの成果や課題は何か、国境を越えて共有し、発展と新たな協力を目指していく地道な国際交流が大きな意義を持つと思います。



アジアの環境活動でつながろう

広告

ぜん息・COPDに関する 電話・メール相談室

環境再生保全機構が運営する「ぜん息・COPD電話相談室」は「ぜん息・COPD」に特化した内容を無料で相談できるものとなっており、全国から毎年1000件近くの相談を受けています。今使っている薬やこれからの治療など、ぜん息、COPDに関する心配ごとやお悩みごとについて、専門医と看護師や保健師がお答えします。ご本人様はもちろんご家族の症状まで、なたでもお気軽にご相談いただけます。

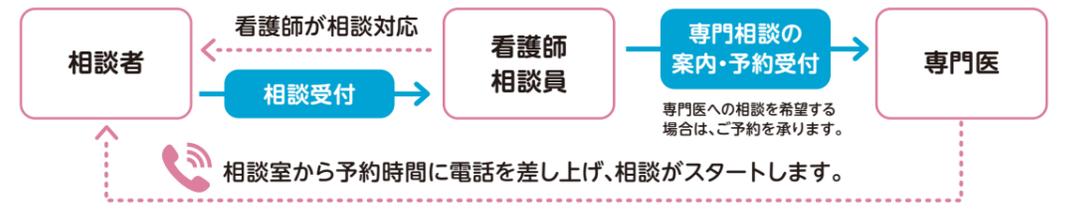
電話だけでなくWebでの相談もできますので、ぜん息やCOPDについて疑問や不安に思っていることなどがありましたら、ぜひ一度ご相談ください。

フリーダイヤル：0120-598014 (こきゅうはい〜よ)
受付曜日・時間：月～土曜日(祝日・年末年始を除く) 10:00～17:00

ぜん息・COPDに関する電話相談室

小児ぜん息・成人ぜん息・COPDの専門医や看護師が無料でお答えします。ぜん息・COPDに関する心配ごとや悩みごとについて、電話やメールでご相談いただけます。専門医による電話相談日はホームページ等でお知らせしております。あらかじめ電話で予約をお取りいただくと、専門医相談日の予約時間に相談室からお電話いたします。

相談の流れ



詳しくは |
またはこちらから <https://www.erca.go.jp/yobou/zensoku/service/tel.html>



環境再生保全機構は、環境問題に幅広く対応するための政策実施機関として設立された環境省所管の独立行政法人です。環境再生保全機構では **様々なパンフレットも全て無料で配布しております**。提供しているパンフレットの一覧はホームページからご覧いただけますので、少しでも気になるパンフレットがあればお電話もしくはホームページからお申込みください。
<https://www.erca.go.jp/yobou/pamphlet/form/index.html>

独立行政法人 **環境再生保全機構** TEL:044-520-9504(予防事業部代表) <https://www.erca.go.jp/>



2024年度 あおぞら財団事業一覧

1 「環境・福祉・防災・文化・生業」の視点から、西淀川の地域再生に取り組む

1. 地域再生:地域資源の活用によるまちづくり(自主財源)
2. 交通再生:交通マネジメントセンター機能の強化
 - 1) 西淀川における「人にも環境にもやさしい地域交通まちづくり」の推進(自主財源)
 - 2) 自転車を活かしたまちづくりの推進(受託元:(一社)市民自転車学校プロジェクト(CCSP)、(株)都市空間企画研究所)
3. 安全再生:防災まちづくりの推進(受託元:西淀川区、自主財源)
4. 健康再生
 - 1) 地域での呼吸ケア・リハビリテーションの普及(助成元:西淀川公害患者と家族の会、自主財源)
5. 交流再生:地域の交流拠点での再生、交流拠点の活用(自主財源)
 - 1) 交流拠点イコバ
6. 文化再生:西淀川の資源を活かした環境文化をつくる
 - 1) みてアート(企業等からの協賛金、自主財源)
 - 2) 大阪市西淀川区における新たな地域コミュニティ支援事業(街角企画株式会社、有限会社OM環境計画研究とともに受託、請負元:大阪市西淀川区)

- 3) 新型コロナウイルス対応緊急支援助成(休眠預金)
- 4) 日本環境会議(JEC)の会員・会費管理の業務

2 公害の経験から学び、未来を創る市民を育てる

1. 公害教育・研修センター機能の強化
 - 1) 講師派遣・研修受入(自主財源)
 - 2) 学校教育(自主財源)
 - 3) 教材開発および研修メニューの整備(助成元:地域環境基金、自主財源)
2. 西淀川・公害と環境資料館(エコミュージズ)の運営
 - 1) 西淀川・公害と環境資料館の資料整理・資料活用(助成元:地球環境基金、自主財源)
 - 2) 他地域や他団体との連携、資料保存・活用の支援(自主事業)

3 公害経験を伝える国際交流

1. 大気汚染経験等情報発信業務(請負元:環境省)

※実行委員事務局として実施しているものを含む

財政状況

(2024年4月1日～
2025年3月31日)

		(単位:円)			
収入	資産運用益	2,667,178	支出	事業費	27,166,023
	会費	1,120,000		管理費	6,254,238
	受託金等	22,182,216		積立金取得支出	664,710
	寄付金	1,414,920		投資有価証券取得支出	0
	雑収入	6,310,852		合計	34,084,971
	基本財産取崩収入	0		当期収支差額	-389,805
	積立金取崩収入	0		前期繰越収支差額	11,349,274
合計	33,695,166	次期繰越収支差額	10,959,469		

りべら No.168 2025年6月号(年3回発行)

発行所:公益財団法人公害地域再生センター(あおぞら財団)
 編集人:谷内久美子
 〒555-0013 大阪市西淀川区千舟1-1-1あおぞらビル4階
 TEL 06-6475-8885 FAX 06-6478-5885
<http://aozora.or.jp/> webmaster@aozora.or.jp
 デザイン:(株)バード・デザインハウス
 会員の購読料は会費に含まれています。
 本誌掲載記事の無断転載を禁じます。



編集後記



あおぞら財団は公害患者さんから「手渡したいのは青い空」のバトンを引き継ぎ、来年で30周年。鳥の目で俯瞰し、虫の目で暮らしに寄り添い、魚の目で時代を読みながら活動してきました。2024年度の活動が、持続可能な社会づくりに貢献できたのか—報告書を読んで是非確かめてください。

研究員からひとこと



谷内 久美子

今までいくつも動画を制作・公開してきたものの、私自身はほとんど映っていませんでした。今回は研修フィールドワークの動画にメインで登場して、まさかのYouTuberデビュー!カメラの前で噛みまくり、NG連発の撮影に汗だく。つつい情報を詰め込みたくなるけど、相手にちゃんと伝えるには引き算が大事。ドラマチックな“間”や“緩急”を大切に、“見せ方”も極めていきたいと思います!



藤江 徹

2024年度は「人前でなんか面白いことをしゃべる」という機会をいただきました。開演時間ぎりぎりまで「うけへんかったらどうしょ〜」と悶々と過ごし、出番の間も次に何をしゃべるかを冷や汗かきながら考えて、終わった後も「あ〜言うたら良かった」とウダウダと反省する。写真は「ちいきいと」さんよど大文化祭・三淀三連戦篇/最終決戦グランドサロン十三(12月1日)出演時(左端)です。はてさて、次はあるのか?



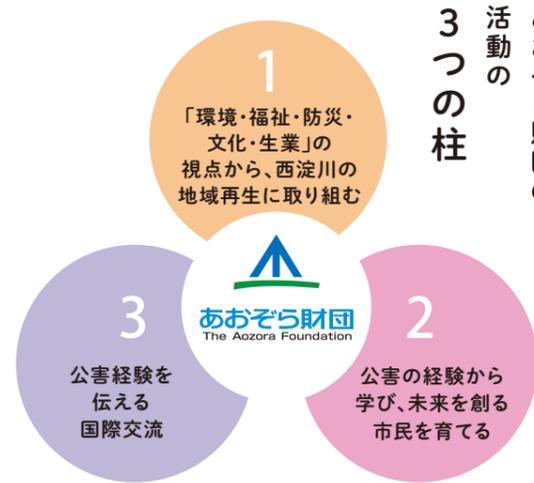
鎗山 善理子

宇宙船VIMANA号に乗って淀川河川敷まで行ってきました。お天気も良く、近くの福漁港をはじめ、川向こうの街並み、大阪湾など絶景が見渡せました。西淀川区アート事業にて。(2024.11.3)こちらの動画に宇宙船はじめ、最後に私も登場していますので、ぜひご覧ください。



詳しくはこちらから

3つの分野の紹介



それぞれの分野から2024年度の主な事業成果を報告いたします。主な事業以外のすべての事業について網羅的に記載している詳細な事業報告は、あおぞら財団のホームページに掲載しています。



<http://aozora.or.jp/johou>